

## FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP Rd,3-Rd,4 OTG MotorSports REPORT

5月3日 | 天候:晴 | 気温:22度 | コース:富士スピードウェイ | 路面温度:45度(ドライ)

5月4日 | 天候:晴 | 気温:17.5度 | コース:富士スピードウェイ | 路面温度:28度(ドライ)

4月13日-14日に岡山国際サーキットで開催された第1戦、第2戦で5年目のシーズンが幕開けしたFIA-F4選手権。大阪トヨペットグループは、若手ドライバーの育成や才能の発掘を目的とする同シリーズを初年度からサポートしていて、2018年シーズンからモータースポーツ部門の「OTG MotorSports」がチームを結成して参戦している。

今シーズンは3年目の参戦となる#60 菅波冬悟選手と、FIA-F4選手権独自のサポートプログラムとなるFIA-F4 JAPANESE CHALLENGEの3代目ドライバーとなる大竹将光選手が#80のOTG DL F4CHALLENGEのマシンを駆ってOTG MotorSportsよりエントリーすることになった。

開幕となる岡山国際サーキットラウンドでは菅波選手が第1戦と第2戦ともに表彰台に登り、ポイントランキングはトップタイと幸先の良いスタートを切った。一方の初参戦となった大竹選手は、第1戦が10位で初ポイントを獲得。第2戦はポイント圏内にあと一步の11位でフィニッシュ。

第2ラウンドは富士スピードウェイが舞台となり、第3戦が5月3日(金)に、第4戦が5月4日(土)に実施された。



#60 菅波冬悟選手

### <予選>

第3戦と第4戦のスターティンググリッドを決める予選は、5月3日(金)の8時5分から30分間に亘って実施された。天候は快晴で、まだ8時過ぎというのに気温は17°Cで路面温度は22°Cとなっていた。コースオープンとともに走行を始めた#60 菅波選手は、2周を使ってタイヤやブレーキに熱を入れると3周目からタイムを上げていく。計測4周目に1分47秒台をマークすると、6周目に1分46秒658、翌週に1分46秒309を記録する。この時点で6番手付近のタイムだったが、さらにタイムアップを図るためにアタックを続けた。しかし、11周目の1コーナーでインディペンデントクラスのマシンに接触されて足まわりを損傷。残り7分の時点で予選を終えることとなった。結果は、第3戦が10番手、第4戦が7番手からのスタートとなった。

### <Rd3>

予選終了から約5時間のインターバルを経て、予定通りに3日（金）の13時25分から第3戦の決勝レースが行なわれた。早朝の予選と比べて気温の上昇はそれほどでもなかったが、日差しが照り付けたために路面温度は45℃となり、タイヤのパフォーマンスを上手く引き出すことや、ストレートの長い富士スピードウェイなのでスリップストリームの使い方が勝負のカギとなる。

10番グリッドからスタートした#60菅波選手は、1周目で2台をパスして8番手でコントロールラインを通過。2周目には中団グループの混戦の中で冷静な戦いをみせて、さらに2台をパスして6番手に浮上する。しかし、スリップストリームが効く富士スピードウェイなので、ストレートでパスされて3周目には8番手にポジションを下げる。その後もテールトゥノーズで先行車を追って、9周目には自己ベストタイムの1分46秒708をマークするがライバル勢も隙を見せず、15周目に8位でチェッカーを受けた。

### <Rd4>

第3戦終了から一夜が明けた4日（土）の8時40分に第4戦は始まる。昨日同様に天候は晴れで、サーキットには早朝から日差しが照り付けていた。

7番グリッドからスタートした#60菅波選手は順調に1コーナーをクリアする。しかし、スタート直後に後続でアクシデントが発生したために1周目からセーフティカーが導入される。レースは4周目にリスタートとなり、菅波選手は7番手をキープ。7周目のGR Supraコーナーで後続からやや強引なパッシングを受けて9番手にポジションを下げるが、翌周には7番手に復帰する。終盤に向けて攻防が激しくなるなかでも冷静にポジションを死守。

11周目にはペースの鈍った先行車をパスして6番手に浮上する。そして、15周目に6位でチェッカーを受けた。



### <菅波冬悟選手>

練習走行では2回とも4番手のタイムをマークできましたが、トップとの差はありライバル勢も同等のタイムで走っていたため不安材料はありました。予選はスリップストリームを有効に使うために、最適なポジション取りを心掛けました。最初は良かったのですが、途中で前のマシンがスピンしたり後続に抜かれたりと、思い通りの展開にはなりませんでした。最後は接触によってタイムアップの機会を失いました。決勝レースは、中団グループの激しい攻防のなかでのレースでした。予選から流れの悪いなかでもポイントを獲得できたことは良かったのですが、本来ならば自力でトップを追えるクルマに仕上げなくてははいけません。富士は8月にもレースがあるので、今回のデータを研究して上位を狙いたいです。



#### <予選>

第3戦と第4戦のスターティンググリッドを決める予選は、5月3日（金）の8時5分から30分間に亘って実施された。天候は快晴で、まだ8時過ぎというのに気温は17℃で路面温度は22℃となっていた。#80大竹選手はコースオープンすると、すぐにウォームアップを開始。まずはタイヤとブレーキに熱を入れつつ、タイムアタックに適切な位置を探る。6周目にラップタイムを1分47秒台に入れると、3周連続で1分47秒台をマーク。計測9周目に自己ベストタイムとなる1分46秒924を記録するが、ライバル勢もタイムアップを果たして18番手を獲得するに留まった。セカンドベストタイムは1分47秒184で、第3戦、第4戦ともに18番グリッドからのスタートとなる。

#### <Rd3>

予選終了から約5時間のインターバルを経て、予定通りに3日（金）の13時25分から第3戦の決勝レースが行なわれた。早朝の予選と比べて気温の上昇はそれほどでもなかったが、日差しが照り付けたために路面温度は45℃となり、タイヤのパフォーマンスを上手く引き出すことやストレートの長い富士スピードウェイなのでスリップストリームの使い方が勝負のカギとなる。

18番手からスタートした#80大竹選手は、スタートは良かったものの1コーナーを過ぎてからの位置取りが悪く1周目のコントロールラインを20番手で通過する。しかし、2周目には5台をパスして15番手に浮上。3周目以降は、10位以内のポイント圏内を目指す集団とのテールトゥノーズの戦いが続く。コーナーで仕掛けて先行車を抜こうとするが、ストレートスピードが伸びずパッシングには至らない。中盤以降はややペースが落ちたため単独の走行となり15周目に15位でフィニッシュした。

#### <Rd4>

第3戦終了から一夜が明けた4日（土）の8時40分に第4戦は始まる。昨日同様に天候は晴れで、サーキットには早朝から日差しが照り付けていた。

予選で18位となった大竹選手だったが、前方の1台がリタイヤしたために17番グリッドからのスタートとなった。レースはスタート直後のアクシデントによってセーフティカーが導入される。3周に亘ってセーフティカーランが実施され、4周目にリスタートとなる。大竹選手は冷静にリスタートを決めて5周目には14番手まで浮上。しかし、翌周にはラップタイムに勝るライバルにパスされて15番手にポジションを下げる。レース中盤の8周目には自己ベストタイムの1分47秒458をマークするが、先行車を追い上げることができない。中盤から終盤はタイヤのパフォーマンスが落ちたために単独の走行をしいられて、15周目に15位でフィニッシュした。

## <大竹将光選手>

開幕戦の岡山国際サーキットよりも走行経験のあり富士スピードウェイでしたが、思った通りのレース展開に持って行くことが難しかったです。合同テストでも同じような位置にいたために試行錯誤して上位を目指したのですが、ポジションを変えることができませんでした。予選はスリップストリームを使えたのですが、ラップタイムが伸びずに2レースともに18番手となりました。第3戦はスタート直後に抜かれてしまいました。すぐに挽回でき追いを図りましたが、しかし、レースペースが苦しくさらに順位を上げることができませんでした。第4戦は、タイヤのグリップ感がなく第3戦よりも苦しい展開でした。レースペースとともに、タイヤのマネージメントもさらに考えながら戦っていく必要があると感じています。



菅波選手は予選の終盤で追突されてしまって残念な結果となりました。これもレースですが、順調に走っていればもう少し上位から決勝レースを戦えたと思います。しかし、予選と決勝レースを見ても、トップ3とはタイム差があったので、マシンのにも本人的にも足りないところがあったはず。第3戦のセクタータイムやコメントを聞いて、第4戦はストレートスピードを稼ぐセッティングにしました。レース終盤に追い上げてくれるはずでしたが、セーフティカーの導入で実質10週のレースとなってしまいました。流れの悪い中でもポイントを獲れたことは良かったと思います。

大竹選手は開幕戦に比べて伸び悩んだ結果でした。FIA-F4はSUPER GTと併催のために、GTマシンが走る前と後で路面コンディションが変わります。その変化に合わせ切れていないようでした。チームメイトはトップ5を狙えるドライバーなので、菅波選手のデータと比較してどこが足りていないのかを研究して挑戦してもらいたいです。簡単なシリーズではないですがトップ10内を走ることで得ることは多いので、ぜひ上位で走ってもらいたいですし、そのためのサポートを行なっていきます。

